



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

ROTARY: CELEBRATE ROTARY - 100 YEARS

「ロータリーを祝おうー100年の歩み」

2004～2005年度・国際ロータリーテーマ/グレン・E・エステス・シニア会長

「ひとが基本ですーみな輪になり手をつなごう」

2004～2005年度・東京新南ロータリークラブテーマ/入沢頼二会長

【本日の例会】2004年9月24日 第857回例会

◎卓話 「展望台登れ」
(天皇、皇后両陛下ご接待物語)

副会長 柴本芳郎君

【先週報告】9月16日(木) 第856回例会

第2750地区仲田順和ガバナー公式訪問
東京南RC・東京新南RC合同例会

◎卓話 「公式訪問に際して」

2750地区ガバナー 仲田順和氏
(東京港南RC)



私がロータリアンになったのは、1977年です。ローマ法王庁パウロ6世が世界の宗教の連携、相互理解を深めることに尽力されていました。それを応援しながら、世界各国、イスラム圏の国々も歩きました。帰国して京都の醍醐寺に奉職し事務の総括役をしました。200万坪の敷地、国宝や重要文化財が39,500点、100,000点の資料、その管理を行ってきました。それをすべてデータベース化しましたが、ロータリーで得た知識が役に立ちました。例会やメーキャップで生きた話を伺いました。京都のワコールの協力で、3Dシステムを使い仏像の再生にも成功しました。それで記者会見をしたら、測定した値を見て記者の間から笑い声がもれました。ワコールのシステムを使ったので、ヒップ、ウエスト、バストの3サイズが出てしまった。仏像はずんどうでした。

ガバナーに指名されたときは迷いましたが、文化財の総合システムを構築できたのはロータリーの皆さんのおかげであり、それで引き受けることにしました。アナハイムの研修会で、エステス会長が100周年のテーマを発表したとき、それをどう理解したらいいかと一瞬思いました。セレブレイトロータリー 100イヤー。それが各国の言葉で表現され、日本語は、「ロータリーを祝おう、100年の歩み」でした。金を集めて100年を祝うのか。エステス会長の言葉で理解しました。ロータリーの歩み、人類の向上のために、より良い未来を目指してきた100年の歩みを、1人ひとりが継承して胸に秘めて欲しい。ロータリーの奉仕が地域のためになっているか、世界の人々に貢献しているか、それを検証する。それによって明日のロータリーが創造できる。ロータリー 100年の奉仕の歩みを縦の線、社会の様子を横の線として、その交点に立って自分がなにをすべきかを考える。

数をともなう活動を話して、会長の思いを伝えたいと思います。一番身近なのがロータリー財団です。国際親善奨学生制度で110か国、34,000人が学びました。そこから、国

際的な指導者、国の指導者、地域の指導者、職場の指導者が数多く生まれました。同額補助金、これは16,000件立ち上げました。発展途上国に大きく貢献しています。

現在の問題はポリオプラスの取り組みです。2005年2月23日、ロータリーが100周年を迎える日までにポリオの野生ウイルスを完全に撲滅する。これまでに136か国20億人の小さな命にワクチンを投与しました。ロータリーが手を出せない国、アメリカの制裁国などにも沢山の小児麻痺の子供がいます。そこにもWHOやユニセフの力を借りてワクチンを配ることができました。ロータリーの友8月号には、インド最後の闘いという記事が出ています。また世界20か国で起きている紛争、この紛争の解決には相互理解が必要だということで、国際平和奨学生の制度ができました。世界7か所にロータリーセンターを設けて、毎年70人の学生を受け入れ2年間の学習の機会を提供しています。2750地区では国際キリスト教大学にセンターがあるので、人的にも経済的にもかなりの貢献をしなければならない。

今ロータリーが掲げる緊急的な援助活動を3つ申し上げます。健康問題、水資源問題、識字率向上の問題です。世界には、HIV感染者が4,200万人。水にめぐまれない人が10億人います。水がないために毎日6,000人の子供が命を落している。読み書きできない人は20億人、約半数が成人で、その3分の2が女性です。そうした女性を取り残され、貧困から脱出できない。発展途上国で苦しむ人達のことを家族と語り合っ

て欲しい。そういうことで家族委員会を提唱しています。こうした問題は私達には関係ない、と思うかもしれない。立派な医師、高度の医療技術、健康管理も行き届いている。自然に恵まれ水の問題もない。識字率も高い。私達は恵まれている。しかし、今青少年の間に薬物の乱用が広がっています。誰でも薬物に手が出せる。都会の水はコンクリートの上を流れ、植物の役に立っていない。識字率の問題もある。すべて携帯電話やeメールのやりとりで、ことを決めている。ロータリアンは毎週食事を共にして語り合う。目と目を見合いながら心地よい話し合いをすることの意味、識字率の問題をこうした角度から是非検証して欲しい。

100周年というこの機会に、ロータリアンであることの喜びを持ち、1人1奉仕を實踐して、それを記録して長く保存したい。思いはあるが手が届かないという奉仕には、ロータリー財団が機会を提供します。ロータリアンは毎年1人100ドルを寄付するという年次寄付金、それに託して欲しい。日本には米山奨学金もあります。地域のニーズに応え、世界の希望に応える。ロータリアンは、皆で未来に向かって進もう。

未来は遠くにあるように思えるがそうではない。未来はこの手の中にある。今月は新世代月間です。未来を担う青少年にも思いを致しながら、ロータリーを大切にしてください。
(まどめ大日方真)

千代田グループガバナー補佐公式訪問

第3回クラブ協議会

(前号の続き)

(テーマ)「職業奉仕は人格的向上が基本です」

2004～2005年度クラブテーマ「人が基本です」

(3)対価をめぐる発明者と会社との闘い 山川政樹会員

発明者が会社を相手取り、何億、何十億、更には何百億円の対価請求の訴訟判決が新聞紙上ににぎやかにしている。自分が勤務している、或いは勤務した会社を訴える時代、世の中は変わったなあと思うのは、私一人だけではない。

どうしてこのような訴訟が起こるのであるのか。これは、特許法第35条の条文に、「職務に関する発明(職務発明)を会社に譲渡し、会社が特許になったその発明から利益を得たときは、発明者は相当の対価の支払いを受ける権利を有する」という規定が存在するからである。いわゆる頭脳労働に関する一種の労働法の存在である。

昭和34年に新設されたこの第35条に関する訴訟は、今ではまったくない。当初は、発明が職務発明に該当するか否かを争う裁判であった。次いで昭和50年頃からは発明の対価裁判である。この対価裁判でも昭和時代は、被告は中小企業、平成10年代は被告が大企業となっている。各判例をよく調べると、被告が中小企業である訴訟は、同族会社内紛に敗れた発明者の仕返しと思われるものが大多数である。また、被告が大企業の場合、発明者が性格的に組織の中に入れない者、或いは一括規定という経営者の怠慢に基因するものが多い。更には、発明者から相談を受ける我々が、職業倫理と職責を忘れることに起因する場合もある。

お金と名声の可能性は、人を職業の本道から踏み外す場合が多い。ここに無用な争いが生じる。やはり、各人それぞれの立場での人格向上が本来の職業奉仕の原点である。

(4)会計士の独立不羈の精神について 山下忠治会員

2001年12月に起きたエンロンの倒産は、アメリカ史上最大の倒産であり、世界中を震撼させました。監査を担当した世界ビッグ・ファイブの一つであるアンダーセン事務所(従業員数8万5千人)は、監査に関する大量の文書を破棄した罪に問われて、これも崩壊しました。このことは、世界中の会計士に衝撃を与えました。この事件をきっかけに、監査の独立性について各国で見直され、我が国でも日本公認会計士協会を中心に大改革が始まったのです。

公認会計士法の中に倫理規則が織り込まれ、「監査業務を行うに当たっては、常に、独立不羈の立場を堅持しなければならない」と謳われました。そこには、例えば、会計士が過去に被監査会社の役員又は従業員であってはならないという身分上の独立性、あるいは、会計士は被監査会社の株式を保有してはならないという経済的独立性が意味されているのですが、そのような外形的独立性よりも、もっと重要なことは、会計監査上、何者にも動かされない堅固な精神をもって、正しい会計情報を投資家や債権者にディスクローズするのだという強い信念を持つことが必要であるということです。

さらに、信頼される会計監査の前提として、経営者は、コンプライアンス(法令遵守)やコーポレート・ガバナンス(企

業統治)について、その重要性を認識することが必要であります。

4.講評 椎津忠三ガバナー補佐

こんなに格調の高いお話を伺い、講評とか批判はとんでもないことです。

今日は各クラブの現状を聞き、地区に何かご希望があればガバナーにつなぐ、という主旨で伺ったのが本来の役目で、講評などとてもないが、2750地区の職業奉仕は新南からという印象を持ちました。

ただ一言お話をさせていただくと、『職業人の前に人として』が重要で、人としてきちんとしなくてははいけない。個があり、2人、3人と拡がったのがロータリーであるから、われわれは子どもたちにつなげる必要がある。

小さい時から『身につける』ことが重要で、ゴルフのようなスポーツでも学生の頃HC5位のシングルになったものはどんなにたたいても50を超えたりしない。何事も身につけることが重要です。我々は職業を通じて、ロータリーを通じて、次代の若者を育てていくことが任務で、大人が反省し範をたれ子どもに、次の世界に伝えていくようにしましょう。

しかし、あまりかまえず、道を歩くように続ける。そうしてロータリーは100年を迎えたのです。

5.まとめ

柴本芳郎副会長

今日は、格調の高い話であった。

職業奉仕委員長や委員のひとから、職業奉仕はよくわからない、という声を聞くが、確かに、奉仕するより、持ち帰って自分の職業に反映させる、という意味から理解しにくい面もある。

しかし私も以前リサイクルの現場を見に行きビックリした記憶があります。利益追求に走りやすい企業でもこんなに素晴らしいことをするのかと。

死語になったかと思っていた『ストライキ』がプロ野球ではまじめに話し合われている。今は、ストライキはやりたくてもやれない時代ですが、たかがと思う気持ちはやめて、お互いに相手を認め話し合って、ストライキもうまく収めてほしいですね。(了)

◎9月16日出席報告(当クラブ)

会員58名/出席32名・欠席26名(出席規定免除者7名)



9月16日 / 6件 38,000円

2004～2005年 累計 327,000円

多額のご寄付を有難うございました。(敬称略)

東京南RC(会長・大島 剛、幹事・出佐正孝、SAA・酒向俊爾、親睦委員長・町田彰祐) / ガバナー公式訪問を受けて、東京南・東京新南RCの合同例会を祝して。小杉修造 / ガバナー訪問で南RCにお世話になります。馬場一廣 / 本日のガバナー訪問いろいろお世話になります。武下朗 / 温かな仲田ガバナーをお迎えして。荒木昭文 / 仲田ガバナー公式訪問よろしくをお願いします。ジョン・チャヌ / 先日の私のコンサートでは台風の接近にもかかわらず、大勢の方々に来ていただき、ありがとうございました。

【次週予告】10月1日 第858回例会

クラブ創立18周年記念例会 (1986年10月3日創立)

ブッフスタイル例会のため卓話はありません。

(例会場 37F アリエス)

東京新南ロータリークラブ [http://www.h3.dion.ne.jp/~newsouth]

【会長】入沢頼二 【副会長】柴本芳郎 【幹事】庄司泰典 【会報委員長】早川清隆 【今週の担当】清水實
事務局 / 〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階 TEL: 03-3505-5976 FAX: 03-3505-6004 new-south@h3.dion.ne.jp
例会日・例会場 / 毎週金曜日 12時30分 東京全日空ホテル 〒107-0052 東京都港区赤坂1-12-33 TEL: 03-3505-1111